

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校

1. 確かな学力と課題解決能力（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. 豊かな人間性（自分だけでなく他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校
3. 地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
4. 次世代リーダー（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成と授業の充実を図る。

- ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。
 - イ 習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。
 - ウ 観点別評価を有効に運用し、生徒の主体的な「学び」へつながる授業の改善と充実を図る。
 - エ 専門コースの授業内容の点検改善を図る。
- ※授業アンケート（2回）の学校平均3.24（R1:3.17、R2:3.23、R3:3.28）をめざす。

2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性をはぐくむ

(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。

- ア 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。
- イ 生徒会などと連携した朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。
- ウ ルールやマナーを遵守し、モラルを高めるための「心の教育」の充実を図る。

(2) 生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす

- ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。
- イ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒支援を行い、生徒との信頼関係を築いた教育活動を行う。

(3) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。

- ア 身近な事柄を通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。

※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合80%以上（R1:76.2%、R2:76.7%、R3:83.1%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合65%以上（R1:59.4%、R2:60.0%、R3:61.4%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合75%以上（R1:69.4%、R2:73.5%、R3:70.8%）をめざす。

3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る

(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。

- ア 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、パソコン検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
 - イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
- ※進路決定者を97%以上（R1:96.0%、R2:94.5%、R3:95.1%）に増加させる。

4 地域と連携した魅力のある学校づくり

(1) 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

- ア 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。
- イ PTAやNPO等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。

※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合80%以上（R1:70.6%、R2:81.6%、R3:83.6%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすく楽しい」（生徒）70.6%（昨年69.9%）、「授業でわからないことを先生に質問しやすい」（生徒）66.2%（昨年63.8%）はともに増加。生徒の理解度を深める授業改善をさらに進めたい。 ・「学習評価については理解できる」（生徒）85.4%（昨年81.6%）、「学習の評価は信頼できる」（保護者）80.2%（昨年78.6%）はともに増加。特に1年生の肯定的意見が89.8%と高く、今年度から始まった観点別評価について一定の理解が得られたと考える。 ・「Chromebookを活用したわかりやすい授業が多い」（生徒）59.3%（昨年63.2%）が減少した一方で、「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」（生徒）88.9%（昨年87.1%）は増加。ICT化を進める中で、生徒がタブレットを能動的に活用する取り組みが必要だと考える。 	<p>第1回（6月24日）</p> <p>○R4年度学校経営計画と取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした魅力ある学校づくりを推進するため、コロナの影響もあるが地域や外部との交流を一層進めてもらいたい。 ・支援が必要な生徒も安心して学べる「ともに学びともに育つ」教育を実践する学校であることを望む。 ・今年度に策定するスクールミッションは、これまでの懐風館の実績を踏まえた内容で、わかりやすい言葉で表現するのがよい。 <p>第2回（11月18日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から通う生徒が多く、卒業後も地域で活躍する生徒をはぐくむスクールミッションが懐風館高校にはふさわしい。 ・様々な課題を抱えている生徒たちを支援していくために、今後も支援教育や人権教育の取組みを進めることが大切。

府立懐風館高等学校

<p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気軽に相談できる先生がいる」(生徒) 63.2% (昨年 61.4%)、「学校はあいさつすることを働きかけている」(生徒) 85.6% (昨年 83.1%) とともに増加。教育相談と生徒指導の取り組みが反映されている。 ・「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」(生徒) 83.0% (昨年 73.5%) は増加。今年度、コロナの影響により中止や延期されていた文化祭などの学校行事を可能な限り実施した。生徒にとって学校行事は思い出に残る大切なものであり、仲間との絆を深める大切な機会でもあるので今後もこの方針を継続していく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICT を活用しながら校務の効率化を図っている」(教員) 84.2% (昨年 73.0%) と増加。ICT を活用した働き方改革をさらに進め、業務負担の軽減を推進する。 ・「子どもを懐風館高校に入学させてよかった」(保護者) 84.3% (昨年 80.6%)、「子どもは学校生活に満足しているようだ」(保護者) 76.4% (昨年 74.7%) はともに増加。保護者からも学校運営を評価していただいております、さらに高い評価をいただけるよう取り組みを進めていく。 	<p>第3回(2月17日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から愛され、社会人として通用する人材を育成する観点から「あいさつ」指導やルール・マナーを守る指導を今後も大切に続けてもらいたい。 ・生徒が地域に出て地域の人たちと交流し、様々な体験を通じて見聞を広める取り組みは定説であり一層進めてほしい。 ・懐風館高校は羽曳野高校と西浦高校の流れを汲んでいる。両校の卒業生には、企業のリーダーや自治体の幹部職員として地元で活躍している人たちが多くいる。このような人材を生徒のキャリア教育や教員力の向上に活用できるのではないかな。 ・スクールミッション案については了承。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	(1) 基礎的な学力の定着と主体的対話的な深い学びをめざした授業改善の取り組みを推進する。	(1) 教員の指導力の向上を図る。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり①から④に組織的に取り組む ①授業改善 年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する ※授業アンケートの実施とその分析及び課題解決 ②校内教職員研修の充実 ICT活用研修、進路指導研修、経験年数の少ない教員に対するOJTや経験の豊かな教員による研修の実施 ③専門コースの充実 ・外部機関と連携した体験学習やグループワークの工夫 ※専門コース科目「サービスマナー基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善 ④働き方改革の促進 ※授業のICT活用とともに、ICTを活用した校務の効率化を図る。	(1) ①授業アンケートによる肯定的評価の向上[2回平均 84.5%] ・学校教育自己診断「先生は、他の先生の授業を見学に来る」生徒の割合今年度以上[52.8%] ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の割合72%以上[69.6%] ②校内研修の実施回数8回以上 [10回実施] ③学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の割合今年度以上[72.1%] ④ICT活用率の向上 学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」[87.1%] ・学校教育自己診断「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」(教員)割合73%以上[71.1%]	(1) ①授業アンケートによる肯定的評価 2回平均 84.6% (○) ・「先生は、他の先生の授業を見学に来る」56.6% (○) ・「授業はわかりやすい」生徒の割合は70.6%で昨年度より向上したが、目標には達しなかった。(△) ・授業公開、研究授業、外部研修などを通じて授業力の向上に取り組んだ。今後も基礎的な学びと発展的な学びの双方に対応した授業力向上への取り組みを進めたい。 ②校内教職員研修は8回実施。(人権2、生徒指導2、ICT2、コンプライアンス1、組織運営1)課題に即した研修を実施することができた。(○) ③「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は70.1%。発表を取り入れた授業の見学や研究協議を通じて授業内容の研究・改善に取り組むたい。(△) ④「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」87.2%。校内研修や研究授業を通じてICTの活用率が向上した。(○) ・「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」84.2%。個々の教員の取り組みによる効率化が進んでいる。さらに働き方改革を進めていきたい。(◎)
2 豊かな人間性をしぐくむ	(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成させる	(1) 規範意識の醸成 ①あいさつの励行 ②個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導 ※毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間(各1週間)を実施。 ※遅刻生徒については、放課後の指導など、生徒指導部を中心に、組織的に指導する。 (2) 教育相談体制の充実 ※隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。	(1) ①学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合の向上 [83.1%] ②生徒の年間遅刻総数の減少 [3640] (2) 学校教育自己診断における「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合の向上[61.4%]	(1) ①「挨拶をする」生徒の割合85.6%。教員の積極的な声かけやあいさつ週間の取り組みが功を奏している。(○) ②年間遅刻者数は4438で目標に届かなかった。遅刻が多い個別の生徒の生活環境の改善指導など、保護者と連携した粘り強い指導に努めたい。(△) (2) 「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合63.2%。学年の教員が日頃から生徒観察を行い、心配な場合は教育相談委員会を中心に迅速に対応するなど、少しの変化も見逃さない体制を今後も継続していく。(○)

府立懐風館高等学校

		<p>※SCを活用するなど、教員の教育相談能力の向上を図る。</p> <p>(3) あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、外部人材を活用するなど「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p>	<p>(3) 学校教育自己診断で「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合の向上 [75.9%]</p>	<p>(3) 「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合 80.1%。外部講師の講演やHRにおける人権学習などを通じて生徒の道徳心と人権意識を深めることができた。(○)</p>
3 「志」や「夢」を自己実現の達成を図る	(1) 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実	<p>(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現の達成</p> <p>①効果的な進路関係行事の実施計画 ※進路体験行事、懐風館セミナー(大学等の出前講義)等の実施</p> <p>②補習や進学講習などの機会を充実させる ※教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める</p>	<p>(1)</p> <p>①学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の割合の向上。[82.5%]</p> <p>②学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上[27.9%]</p>	<p>(1)</p> <p>①「進路についての情報提供がされている」生徒の割合 83.4%。大学見学会、保育実習や職業体験を行う懐風館セミナーなど、生徒が自らの進路を考え、切り拓く取組みを今後も進めていく。(○)</p> <p>②「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 29.4%。今後も基礎学力充実のための補習や進路別進学講習による学力の保障と向上に取り組む。(○)</p>
4 地域と連携した魅力のある学校づくり	<p>(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信</p> <p>(2) 地域と連携した取組みの推進</p>	<p>(1) 学校の様々な取組みを、中学生、保護者、中学校の教員に理解してもらう ※中学校訪問や学校説明会、体験入学を充実させる ※中・高の教員間の交流を推進する ※学校HPを通じた情報発信</p> <p>(2) 地域と連携した外部講師の活用や福祉ボランティア等の生徒が地域に出る体験活動を推進する</p>	<p>(1) 中学校訪問回数や説明会等への参加者数を増やす。[参加者数280名] ※教員研修や研究授業等を通じて中・高の教員間で交流を実施する。 ※校長ブログや部活動ブログ等を通じて日常的な学校の様子を発信する。</p> <p>(2) 外部講師を招いての授業や地域清掃等の地域と連携した体験活動を実施する。</p>	<p>(1) 学校説明会(本校主催)参加者数311名。地元市の中学校長会への出席や教育委員会との定期的な会談を通じて連携強化を図ることができた。また、羽曳野市に依頼し、市の広報誌に学校紹介や説明会日程を3回掲載。(◎)</p> <p>(2) 地域清掃は年間5回実施。サービスマーケティングの授業では地元の2つの保育園とグループホームで実習と交流を実施。また、文化局が地元の市民文化祭に参加して市民との交流を図った。(○)</p>